

## 主は来られる

2009年1月18日 アシェル・イントレーター

福音の中で、イエシュアはご自身の再臨について頻繁に語られました。時々主はたとえ話(麦や毒麦、網にかかった魚、賢い花嫁と愚かな花嫁、結婚披露宴、10 タラント、ぶどう畑を人に貸す、山羊や羊など)で語られました。

3度ほど主はご自身が栄光を受けて再臨される事を公に語られました。1) ご自分が十字架にかかると預言された時、2) オリーブ山で教えられた時、そして 3) サンヘドリンで証言をされた時です。

**1) マタイ 16:27 「人の子は父の栄光を帯びて、御使いたちとともに、やがて来ようとしているのです。その時には、おのおのその行ないに応じて報いをします。」**

十字架での主の弱さに対し、イエシュアは栄光と力を帯びて再臨されます。以前ご自身のために利用されなかった栄光を用いて、主は天の軍勢を従えて来られます(マタイ 26:53)。主ご自身が人々に対する裁きを背負われた十字架とは反対に、主は裁きをもたらすために来られます。

**2) マタイ 24:30-31 (前略) 人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。**

ここで私たちは再臨のメイン・テーマを見ます。栄光の力、天の軍勢、そして聖徒たちの集結です。オリーブ山での教えはイエシュアによる終わりの時の基礎となる教えです。この教えの中で主はご自身の再臨とノアの洪水やソドムの破壊と比較されています。

主はまた終わりの時について数多い旧約聖書の預言書から引用し(ダニエル書、ヨエル書、ゼカリヤ書、イザヤ書、エレミヤ書など)、主の臨在はすべてのヘブル人預言者が教えたことと一貫していることを示されました。

**3) マタイ 26:64 (前略) 人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るようになります。**

サンヘドリンはイエシュアに対し、あなたはメシアで生ける神の御子かと尋ねました。主の答えは、詩篇 110 章でメシアの敵が足の下に置かれるまで父なる神の右手に座すると述べ、ダニエル書で人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれたとあり、それは私のことであると述べられました。主は大祭司として彼らに語り、彼らが持つ聖書(訳注: 当時は旧約聖書のみ存在した)を根拠として信じるように言われました。

時は近い

歴史上今ほど、終わりの時の預言成就に必要な要素がすべてそろっている時はありませんでした。世界中の金融制度に危機が生じています。すべての国々の連合体として一つの組織(国連)が存在します。イスラエルの完全殲滅を促進する世界的な宗教が存在し、ユダヤ人を殺す者は誰でも神(イスラムの)の働きを行っているのだと主張しています。イスラエルには様々な種類の超正統派ユダヤ教徒がおり、王であるメシアがすぐに現れるよう待っていますが、それはイエシュアが言われる「**多くの偽預言者(マタイ 24:4, 24)**」への道筋となるのです。

良い側面として、福音は世界中を回り、中国、インドそしてアフリカで大いに進行しており、大宣教命令が一世代で達成されるのではないかと考えられるのです。さらに、イスラエルのメシアニック・レムナント(訳注: イエシュアを信じる「残りの人々」)は今だ少数ですが、毎日強く成長しつつあります。

**マタイ 24:32,34 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかかになって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。**

いちじくの木はイスラエル国家です。イスラエルは 2000 年間の死の流浪の末、復活しました。枝が柔らかくなることの意味は何でしょうか。2000 年の秋、ここイスラエルで福音を伝える私たちは、人々の心が変化していることに気が付きました。人々の心が柔らかくなっているのです。彼らは聞いています。葉が出てくることの意味は何でしょうか。現在イスラエルには 100 を超えるメシアニック集会があります。ほとんどの集会は小規模ですが、それらは若芽として確かに認められるものです。これらの解釈によりますと、イエシュアはこの世代に戻ってくるはずです。

**マルコ 1:15 「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」**

聖書の御言葉はどの世代にも関連していますが、それぞれの時代の状況に応じて緊急性を帯びたものとして御言葉を教えるのです。預言は普遍的なものですが、これらの預言が成就する「カイロス(注)」のタイミングがあるのです。エレミヤは神殿が破壊される前に教えました。エズラは神殿の再建前に教えました。バプテスマのヨハネはイエシュアの最初の降臨前に教えました。イエシュアの再臨の前、私たちは教えるためにここにいるのです。

注:カイロス:ギリシャ語の「実行、決断の時」や「潮時」を指し、主観的なある「時」を指す言葉。

過去 2000 年間なかったほどに時は近づいています。神の御国が来る条件とイエシュアの再臨は私たちの目の前で成就しつつあります。

ガザでの現在の戦闘が中断する時私はこれを書いています。イスラエルのユダヤ人信者として、私は奇妙な悪魔的な霊の列を見るのです。革新的なメディアは報道を曲げています。イスラム教徒は私たちがユダヤ人であるということで憎んでいます。正統派ユダヤ教徒たちは私たちがイエシュアを信じていることで迫害します。マタイ 24:22 「もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。」最近の戦争において両陣営の罪のない犠牲者の生活に対して深い憐れみに心碎かれています。世界の紛争は増加するでしょう。何百万人という人々が殺される戦争が起こるかもしれません。

**詩篇 96:13 「確かに、主は来られる。確かに、地をさばくために来られる。主は、義をもって世界をさばき、その真実をもって国々の民をさばかれる。」**

この御言葉は主の再臨を要約しています。イエシュアは来られます。主は裁く者として来られます。主の裁きは正しく公平です。

イエシュアはオリブ山での教えを大いなる警告で締めくくりました。「用心しなさい。」マタイ 24:44 「だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来るのですから。」主は来られます。それについては疑問の余地もありません。質問は単純で、私たちにはその用意ができていますでしょうか。